



# ippo(いっぽ)

【全校の研究テーマ】 一人一人が学んだことを実感し、自分から行動する姿を目指して  
～各教科等の指導を支える自立活動の視点から～

今号から3号連続で、12月6日の公開研究会の各学部分科会で話題になったことを紹介します。今回は小学部分科会を紹介します。

## 小学部分科会より

協議テーマ①目指す姿が授業のなかでどのように表れていたか

【一人一人(特に抽出児)が学んだことを実感し、  
うれしさややりがいを感じて取り組む姿】

②そのための手立て(学習活動、場の設定、教師の働きかけ)はどうだったか

### <ワークショップ>

#### ★授業説明から★

- ・「10才おめでとうパーティー」を開き、両親に感謝の気持ちを伝えるため、「ぼくらどら焼きづくり隊」になり、調理に取り組んだ。
- ・自分たちでアイデアを出してどら焼きを作ったり、できた物を誰かにあげる喜びを感じたりしながら張り切って進めた。
- ・児童はやりがいを感じて自分たちで活動を進めており、課題の行動が減り、本人なりに頑張ろうという気持ちが行動から伝わってきている。



#### ★協議から★

- ・好きな活動を存分に生かした単元、活動内容だった。子どもたちが意欲的に取り組み、逸脱しても自分で戻ってきていた。
- ・リーダー的役割の児童の役割を増やすことで、教師の支援を調整できそう。
- ・繰り返しの活動により見通しをもち、どんどん取り組んでいた。
- ・導入、歌、食べてもらう人の発表が意欲づけになっていた。
- ・今の活動にプラスしてちょっと頑張れば達成できそうな課題があれば、「頑張ればできる」気持ちを育てられるのではないか。
- ・子どもによってもてなす意識に差があった。自分たちで食べる活動をもっと充実させればよいか。
- ・教材の工夫、完成度、回数、難易度の工夫ができそう。
- ・教師が子どもの動きを止めたり不用意に手を出したりすることがなく、子どもが自分でやっている気持ちを大事にしていた。

### <指導助言> 秋田県教育庁特別支援教育課 指導主事 佐々木 朋広氏

- ・単元のゴールを見据えて授業が組み立てられていた。両親の写真の提示が効果的で、「10歳おめでとう」の価値について導入に盛り込んでいたのが良かった。ホットケーキを作ることがゴールではなく、毎時間の活動の積み重ねが最後のゴール(パーティー)につながっている。パーティーの後に振り返りの時間をつくることで、子どもたちのやりがいにつながるであろう。
- ・ほぼ一人で全工程をこなしているのが良い。役割分担をしがちだが、今やっている自分の役割が何につながっているのかを子どもが理解しながら取り組ませるためには、一人で行った方が良い。できることだけを役割としてやっていると困る場面はなかなかないが、一人で全工程をこなす場合には困る場面が出てくる。今後、AとBと一緒に取り組む場面も設定できそうである。
- ・気持ちを安定させるという目標に向かうためにはどんな工夫が必要か。好き過ぎる題材を用いることでそれが強い刺激になり、目標に迫れないということもあるかもしれない。食べ物を扱うのが悪いということではなく、背景を掘り下げてみる必要を感じた。